…› 伊藤雅弘（(株) 東芝）

発想法の使い方



加藤昌治 著
(株) 日本経済新聞出版社（2015），日経文庫，200p.，860 円+税，ISBN : 978-4-532-11332-2

「数，数，とにかく数！でいいんだ，ってこと」

研究者であれ，ビジネスパーソンであれ，新しいアイディアを求められる場面は多いと思います．特に，新しい研究ネタ，新しいアプリケーション，面白いサービスなどを日々生み出している情報分野の研究者・技術者はなおさら．本書は，「アイディアとは」という定義から，その発想法を，いくつかの手法を元に実践的に，そして軽快な語り口で解説しています．「方法論だけで良いアイディアが出たら苦労しないよ」というご意見も聞こえてきそうですが，それはごもっともです．じつは，この書籍には良いアイディアを出す方法なんて書いてありません．ただ，たくさんのアイディアを出すための，基本的な心構えやあの手この手が簡潔に語られています．そして，そのたくさんの平凡な・突飛な・役に立たなそうなアイディアの中に，光り輝くアイディアが含まれている確率を高めるのです．なので，普段からどんどんアイディアが出て止まらないアイディアパーソンの皆様にはお役に立てないと思います．本書は，「ブレーンストーミングぐらいなら知ってるけど……」という多くの方に役に立つ実践的な入門書です．

「アイディア」とは

第 1 章では，そもそも「アイディアってどんなもの？」ということから解説して，読者との意識合わせをしています．私もなんだか漠然と「アイディア」と言っても，その定義なんてあまり意識したことがありませんでした．本書から，「アイディアってこうだよ」と教えられて，「あぁ，そうだよね．アイディアってこんなんでいいんだよね」と安心しました．たとえば，「アイディアとは，“組合せ”でしかない」ということ．それも，自分の経験・知識の範囲内．考えてみれば，確かにそうです．すごいアイディアを考えたい，と思っても所詮自分が知らないことは出てきません．だからこそ，自分の経験・知識を，さらには願望を（恥ずかしがらずに）洗いざらい絞り出して，その要素を（あり得なさそうな）組合せも含めて考えてみたりして，アイディアを量産するのです．あくまでこの段階では，「アイディアは，単なる選択肢でしかない」ということです．普段，あまり意識しないでいると，「アイディア」ではなく「企画」を考えてしまいがちです．すると途端に，制約条件が多くなって，出てきた企画も，じつは想像の範囲を超えない，面白みのないものになってしまいます．だから，アイディアを量産する段階では，いろんな制約条件を取っ払って「わがまま」放題でいいんです．以降の章でも，このような励ましは随所に書かれていますが，これが本書の大きな目的の 1 つではないでしょうか．

アイディアを出す

第 2 章～第 5 章は，実際にアイディアを量産するあの手この手を，「課題を細かく分割する」「課題をいったんズラす」「論理的に問いかける」「直観的に問いかける」という 4 つのアプローチに分けて

書かれています．1つ面白いと思ったものを紹介すると，「パーソナル・アナロジー法」です．これは，課題（対象物）と自分を一体化して考える手法です．たとえば，ホワイトボードマーカーの新商品を考える場合，ホワイトボードマーカーに自分がなりきって，最大限の妄想力を働かせて，要望・願望・苦情などを考えます．そうすると，使う側・作る側とは違った，新しいアイディアが出るかも……．ちょっと面白そうじゃないですか？

最後の第6章，第7章では，特にグループでアイディア出しをする際のアイディアの描き方，グループの運営方法について書かれています．ここでやっと皆さんご存知の「ブレーンストーミング」が出てきます．第5章までの基本的な心構えやあの手この手を読んだ後だと，すんなり納得できると思います．

実践してみました

私も実際に，本書を踏まえて職場のメンバでアイディア出しを実践してみました．一番印象に残ったのが本書の「（ちょっと）エロいアイディアが思いついちゃったりしますが，立派なアイディアなので捨てちゃダメ」というアドバイスの実践．私も（恥ずかしながら）思いついちゃったので，（一応ファシリテータに「いいですよね……？」と確認した上で）場に出しました．すると，心理的ハードルが下がったのか，それが呼び水のように，ほかのメンバからもアイディアがまた出始めました．一通りメンバのアイディアを出しきった感じがあったのですが．「なるほど，包み隠さずアイディアを出すってことは，こういう効果があるのか」と納得したのを覚えています．

本書は，発想法についてあまり知らない人はきっと今後の活動に役に立ちますし，ある程度知っている人も，きっと新しい発見があったり再確認にもなると思います．ぜひ，お手にとってみてください．

（2016年6月6日受付）

伊藤雅弘（正会員） masahiro20.ito@toshiba.co.jp
2011年大阪大学大学院情報科学研究科博士後期課程修了．博士（情報科学）．同年，（株）東芝に入社，現在に至る．主に，対話システム，テキストマイニングに関する研究開発に従事．

